

ふるさとわがまちづくり

勘八自治区

◆「勘八町」の由来

勘八町自治区は、平戸橋の上流、勘八峡ダムを望む国道153号線沿いの標高100メートル前後の丘陵台地にあります。「勘八峡、勘八牧場、東海環状自動車道（豊田勘八インターチェンジ）のある所」といえば、ご存知の人も多いでしょう。

戦前まで今の勘八町の大部分は御料林となっており、皇室の財産として手厚く保護され、立派な松の大木がうっそうと茂っていたそうです。また、関東大震災の翌年、その復興のための切り出しの時には4日間も燃え続ける大火となったことを聞いています。

さて、現在の区の誕生は昭和21年、国の『緊急開拓食糧増産対策事業』で入植者が募集され農地開拓が始まった時です。この年、当時の石野村村長に、戸数5戸による『勘八部落編成申請書』が提出され、石野村大字石下瀬となっています。（ここでいう部落とは、一般の生活集合体のこと）そして、23年の開拓農業協同組合設立時には、入植者は総勢25人となり、区も徐々に大きくなってきました。しかし、開拓事業は入植者個々の農地こそ平均1.7ヘクタール（一町七反）ほどありましたが終戦の混乱期であらゆる物資が不足しており、加えて、丘陵地のために土地が痩せており、並大抵の苦勞ではありませんでした。生産物は蕎麦、ジャガイモ、カボチャ、小麦が主なものでした。

次に、その後の区の生い立ちを見ますと昭和30年に石野村が猿投町と合併し、猿投町大字勘八となりました。この『勘八』のいわれは、江戸末期の頃でしょうか…？区内の岩屋に『勘八太郎』という山賊が住んでおり、その名前からという一説もあります。そして42年、猿投町が豊田市と合併して、豊田市勘八町となり現在に至っています。また、49年には開拓農業協同組合が解散しました。



現在の戸数は99戸、人口は454人です。農業は当初の畑中心と違い、広大な面積を利用して酪農が盛んに行われ、1部、養蚕・煙草・野菜・園芸が行われています。一方、他の農業地域でも見られるように、ほとんどの家が兼業農家となりました。

◆勘八町誌と開拓の碑

昭和21年の戦時疎開者等の就労のため、越戸発電ダムの左岸一帯の山（通称：勘八山）の開拓を始め、平成17年には60周年を迎えた。豊田市のわくわく事業補助金を利用し、「勘八町誌 六十年のあゆみ」（全259頁）を製作し、平成18年7月に発行した。

また、入植以来60周年を記念し、往時の苦勞を思い、地域の発展を祈念して「開拓の碑」を平成19年3月に建立をした。



勘八峡

◆「勘八町」のこれから

近年は、都市化の進展に伴い住宅開発が進んだうえ、東海環状自動車道の開通もあって、その姿を大きく変えようとしています。

これまで、伊勢湾台風や47.7集中豪雨の災害復旧先の幹線農道の整備、あるいは「ふれあい会館」の建設など、どんな問題に対しても入植者の開拓魂～つまり強い意志と団結力を見習い克服してきました。この良い伝統を礎に、農業面では一層の土地の有効活用を進め、発展を図りたいと思います。そして緑に恵まれた当区は、勘八峡、勘八牧場があり、東海自然歩道が通っていますので、この自然をいつまでも大切にしていきたいと思っています。

また、自治区役員を中心に青年部、婦人部、熟年部、太鼓クラブなどの活動が活発に行われています。こうした区民の活動をも一層充実し、心のつながりが持てる明るい町づくりを進めたいと願っています。



勘八自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：99世帯

：56世帯（昭和52年）

組数：8組

面積：3.468Km²

自治区たより：「勘八だより」年6回

回覧：月2回

防犯灯設置箇所：80箇所

小学校：上鷹見小学校区、東広瀬小学校区

自治区会館：勘八ふれあい会館